

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名)

事業所番号	0272400870		
法人名	有限会社 田中運送		
事業所名	グループホーム たなか		
所在地	青森県北津軽郡鶴田町大字鶴田字小泉304-1		
自己評価作成日	平成23年8月9日	評価結果市町村受理日	平成23年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・田園地帯でリビングからは岩木山を眺め、四季を感じとり、こじんまりとした施設内は家庭的な雰囲気である。
- ・市内のイベント等に積極的に参加し、地域との関わりを大切にしている。
- ・食に配慮し、国産品、手作り料理にこだわったメニューを提供している。
- ・誕生日には希望食が献立に取り入れられ、ホームからのプレゼントがある他、家族と食事する機会を設けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年9月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者のグループホームに対する思いは「自分の入りたいグループホームの実現」であり、地域密着を意識した取り組みを行っている。その思いを管理者及び職員は十分理解しており、地域の中で、家族のようなあたたかい支援に支えられながら、自分らしく生きるという願いを実現できるよう、ケアを実践している。また、利用者とのつながりは勿論であるが、家族とのつながりや意見も大切にしている。毎月家族に発行されるホーム便りには3か月に1回のペースで苦情受付窓口を明記する等の工夫をしている。職員間や利用者とのコミュニケーションも良く取れており、利用者はゆっくといい思いに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は代表者・職員が共に考え、ホーム内の目の届く所に掲示し、定期的に唱和し、日々のサービスに繋げるようにしている。	運営者・管理者・職員は、地域の中で安心して暮らせるようにという願いが込められた理念を作成しており、地域との関わり合いの大切さを理解しながら、日々の業務に反映させている。また、理念をホーム内に提示し、毎月の職員会議等で確認し、周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加する機会を設け、保育所や芸能愛好会等の訪問を受け入れ、交流を図っている。	町の行事に積極的に参加し、地域住民に理解してもらえるよう働きかけている。また、近隣住民が野菜を持ってきてくれる等、地域とのつながりや交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	要望に応じて、見学や認知症ケアに関する相談を実施している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、ホーム内の年次計画や日々の状況を報告し、意見・助言を得ている。議事録も閲覧できるようにしており、職員間で話し合い、業務に活用している。	運営推進会議は2か月に1回開催され、会議では事業計画、運営状況、職員の質の向上、利用者の安全対策等を説明しており、活発な意見や助言等が出されている。また、会議の内容を記録し、いつでも誰でも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者や地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加し、日常的に連携を図っている。	運営推進会議には、役場担当者や地域包括支援センター職員が参加し、運営に関するアドバイスを得ている。また、役場、地域包括支援センターにパンフレットを配布し、日常的に連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>全職員が身体拘束の内容やその弊害について理解を深めており、拘束を行わない姿勢を徹底し、日々のケアを提供している。やむ得ず行う場合は家族に説明し、同意を得るようにしている。</p>	<p>身体拘束については、外部研修に参加した時の資料を基に内部での伝達研修を行い、理解に努め、全職員で身体拘束をしないケアの実践を心掛けている。玄関は、防犯上夜間は施錠をしているが、外出傾向が見られた際には、常に職員が寄り添って、利用者の意向に沿うよう支援をしている。また、やむを得ず身体拘束を行う際は、同意書や記録を残す体制が整っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について内部研修会を開き、周知徹底を図り、日々のケアの中でも虐待のないよう十分心掛けている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者が外部研修に参加し、職員に報告を行う事で全職員が理解を深めている。また、以前利用者が日常自立支援事業を活用していたため、その内容を全職員に周知している。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際、利用者や家族に対し、ホームの理念や運営方針、サービス内容についてわかりやすく説明し、理解を得るようにしている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に内部及び外部の苦情受付窓口を掲示している他、家族が意見を言いやすいよう玄関に意見箱を設置している。また、定期的に家族通信に苦情受付窓口(内部・外部)を記載している。</p>	<p>玄関には苦情箱を設置している他、毎月送付しているホーム便りに3、4か月毎に苦情受付窓口や、外部の苦情受付窓口を記載し、周知している。家族や利用者から出された意見等については、速やかに運営に反映される体制が整っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時だけでなく、随時、意見や提案を聞く機会を設け、話し合いにより業務に反映させている。	月1回開催する職員会議には、運営者は勿論、全職員が参加し、意見を聞く機会を設けている。また、職員会議の内容を記録し、意見を反映する仕組みを整えており、勤務希望は事前に申し出ることで勤務体制を調整している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況を把握しており、事前の休日希望を受け入れ、人員を確保している。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量を考慮した上で、研修へ積極的に参加させている。また、資格取得に向けてもサポートしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全国・県・西北五協会に加入し、積極的に研修に参加し、サービスの質の向上に取り組み、意見交換する機会を設けている。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談がある時は、本人の不安や要望・希望を聴く機会を設け、信頼関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面接する機会を設け、不安や要望・希望を汲み取りながら、信頼関係を築くよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望等を聞き取り、支援に努めている。また、必要に応じて他のサービス機関に移行するよう支援も行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者と共に過ごし、一方的な関係ではなく、できることは「やりたい」と言える環境を作り、喜怒哀楽を共感し、共に支え合う関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と意見交換することにより、利用者の思いや気づきを共有し、利用者と共に支える関係作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の要望があれば、馴染みの美容院や知人との継続的な繋がりができるよう支援に努めている。	入居時に本人、家族からの聞き取りを十分行くと共に、日常生活の会話の中から馴染みの関係を把握するよう努めている。また、外出時に知人に会った際等は、ホームに気軽に遊びに来てもらえうように声掛けする等、支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、相互関係を調整しており、孤立せず、利用者同士が支え合えるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族の相談に応じる等、できる限り対応に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、利用者の希望や意向を汲み取るよう努めている。また、必要に応じて家族や関係者から情報収集をしている。	入居時に本人、家族、これまで関わってきた人からの聞き取りや情報収集を十分行い、日々の会話や行動から思いや意向を把握している。また、利用者の行動や表情がいつもと違う時は申し送りを活用し、全職員で把握していくよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、利用者のプライバシーに配慮しながら、本人の背景に関する情報の大切さを家族に理解してもらった上で、生活歴等の情報収集をし、全職員が把握するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を通して、個々の状態や状況を把握するように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際は担当職員の意見や気づき、状態報告等を視点にしている。また、利用者や家族、医療機関や関係機関の意見も計画に反映させている。	利用者の希望や思いを全職員で汲み取るように努めており、家族の思いや知人の気づきを反映し、介護計画を作成している。実施期間を3ヶ月と明示し、期間終了後は評価をして、見直しを行っている。また、利用者の状態や希望に変化があった時は随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、一人ひとりの日々の様子や身体状態等を具体的に記録し、全職員が閲覧し、情報を共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域から協力が得られる体制を構築しており、避難訓練時は、消防署に依頼し、指導を受けている。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からの医療機関での受診が継続できるよう支援している。受診結果については電話や便りで報告している。また、必要に応じて、受診時、家族にも同行していただいている。</p>	<p>入居前からの受診状況を確認しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、必要に応じて、家族にも受診への同行を求め、情報交換や話し合いも行っている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションと医療連携体制をとっているため、週一回の訪問時に情報交換し、随時連絡・指示が受けられるようになっている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、頻回に見舞いに行き、本人の様子を観察する他、家族や医師・看護師と情報交換し、早期退院に向けて支援している。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期の対応について利用者本人の状態や家族の要望を汲み取りながら対応するようにしている。また、日常的な健康管理や急変時の対応については契約時に確認するようにしている。</p>	<p>訪問看護と医療連携していることで24時間対応が可能となっている。利用者の急変時等の方針については、随時家族や病院等と話し合いを行い、意思統一を図っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	緊急時のマニュアルを作成しており、定期的に訓練するよう心がけている。			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	定期的に避難訓練を実施している。食料や飲料水も定期的に点検し、常備している。また、防寒対策もしている。	年2回昼、夜を想定した避難訓練を消防署職員と一緒にしている。また、災害発生時に備え、食料や飲料水、毛布等も用意しており、消火器や避難路の確保等の設備点検を定期的に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	個々の人格・意思を尊重し、言動や行動を否定・拒否しない姿勢と、言葉遣いや対応に配慮するように努めている。	利用者の言動を急かすことなく、利用者の立場に立ったケアを実践している。また、声掛けや対応は、利用者の羞恥心に配慮されたものとなっており、研修や会議等を通じ、プライバシーに配慮して業務にあたるように共有され、実践している。		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	利用者の意思を尊重し、自分の言葉で意思表示できるよう、複数の選択肢を提示し、選べるように支援している。			
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	個々のペース、その日の体調に合わせて、柔軟に対応するようにしている。			
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	職員の中に美容師がいるため、個々にあった髪型にしている。本人の要望により近隣のショッピングセンターに買物に出かけ、衣類等も購入している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好状況を把握し、国産品・旬の食材を取り入れた献立を作成している。また、食材の下ごしらえの手伝いをしている。	利用者の好き嫌いを十分把握した上で、できるだけ喜んでもらえるような献立となるよう努力している。また、利用者のできる範囲で材料の下準備や後片付け等を、職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや一日の摂取カロリーを考慮して献立を作成している。水分摂取量も必要に応じて記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、義歯洗浄を促し、毎週土曜日に義歯洗浄液につけ、清潔保持に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを記録・把握し、個々に応じて、気持ちよく排泄できるよう支援している。随時トイレ誘導し、トイレで排泄できるよう働きかけている。	個人の排泄記録表を作成して排泄パターンを把握しており、個々に応じて、気持ちよく排泄できるよう支援している。また、自立支援に向けて力を注いでいる他、排泄時のプライバシーや羞恥心にも配慮した支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排泄に繋げられるよう献立に繊維質のある物や果物を取り入れ、軽い運動もしている。主治医とも連携を図り、下剤の量を調整している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の入浴習慣や好みに合わせて行っており、職員がすぐに対応できるよう、見守りを強化している。	入浴は週2回となっているが、職員は利用者一人ひとりの入浴習慣を把握しており、入浴を楽しめるよう支援している。また、随時利用者の希望を取り入れて対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、状態に応じて午睡を取り入れたり、日中適度に活動するよう支援し、夜間の安眠に繋げるようになっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的や副作用について全職員が把握しており、変更時は通院ノートや申し送り等で周知徹底を図るよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や希望、趣味を会話の中から汲み取るようにし、利用者の好きなこと、できることを支援するよう努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会を積極的に設け、近隣への散歩から遠足に至るまで利用者の希望を尊重している。また、個人的な外出希望に沿うよう時間調整し、支援している。必要に応じて家族の協力を得るようにもしている。	日常会話や家族等からの情報により、希望や習慣を取り入れた外出を支援しており、遠足や買い物外出等は月1回は実施し、近隣への散歩等も利用者の希望に応じて対応している。また、必要に応じて家族にも外出の同行を促し、コミュニケーションを図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者は金銭を所持し、自由に買い物していただいている。管理できない場合は、個々に合わせ、買い物時に自分で支払うことができるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話はいつでも利用できるようにしている。希望があれば電話をかけたり、手紙の代筆をするように支援している。</p>			
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な物や、季節感のある作品を展示し、居心地良く、職員も落ち着いて業務するよう心がけ、和やかな雰囲気づくりをしている。天気の良い日はテラスでカフェを楽しんでいる。</p>	<p>共同スペースにはテーブル、ソファ、雑誌、大きな時計、テレビ、カレンダー等がある他、壁にはスナップ写真等が飾られ、家庭的な雰囲気となっている。利用者同士の会話、職員の声、テレビの音等も騒がしくなく、採光も十分で、温度や湿度も記録し、適切に管理している。また、玄関や廊下には季節感が感じられる作品等が飾られている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングで利用者同士が会話を楽しめる場所を確保し、一人ひとりを尊重した座席にするよう心掛けている。また、玄関先の椅子に座り、外を眺めるスペースもある。</p>			
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンスや身の回りの物、テレビ等を持参し、本人らしい部屋作りをしている。また、家族の写真等を飾り、落ち着いて過ごせるよう工夫している。</p>	<p>入居前から愛用していた物等が持ち込まれ、馴染みの生活ができるよう取り組んでいる。利用者や家族の意向を取り入れ、一人ひとりに合った居室作りを支援している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>目印や表示により、場所がわかるよう工夫し、混乱防止を図っている。内部は手すりを設置し、玄関はスロープ・手すりをつけて、安全に生活できるよう配慮している。</p>			